

平和教育の目標と主題（案）

1. 平和教育の目的

日本国憲法と教育基本法(1947年制定)の理念を実現することであり、平和を愛し、平和実現のために行動する主体を形成することを目的としている。

2. 平和教育の目標

原爆・戦争（紛争）のもつ非人間性・残虐性を知らせ、戦争（紛争）およびそれを引き起こす原因や背景となる人権抑圧や飢餓・貧困などへの怒りや憎しみの感情を育てるとともに、平和の尊さと生命の尊厳を理解する。

戦争（紛争）の原因を追及し、戦争をひき起こす力とその本質を科学的に認識する。戦争（紛争）の背景となる人権抑圧・飢餓・貧困などの構造的暴力についての現状を認識する。

核戦争や戦争（紛争）を防止し、平和を守り築くために世界的な視野で考え行動化できる主体を育てる。

3. 学年目標と主題

	目 標	主 題
小学校低学年	文学作品・映像作品などから原爆・戦争（紛争）の恐ろしさを感じ性的にとらえ、すべての人間、すべての生命をいつくしみ、平和を愛する豊かな心情を育てる。	(1)命や平和についてのイメージを豊かに持ち、命の尊さと平和の大切さに対する心情を養う。 (2)戦争についての誤ったイメージを取り除き、正しい考えを心情的に育てる。 (3)絵本や文学作品などを通して、原爆・戦争（紛争）の悲惨さを理解する。 (4)原爆投下の日時・国・被害の大きさについて知る。 (5)学級の中に、問題が生じたとき、力で解決しない平和的な文化を築く。
小学校中学年	地域の学習や戦争体験者などから原爆・戦争（紛争）の実相や悲惨さを学び、平和の大切さと必要性を願う心情を育てるとともに、戦争や不正義を許さない態度を養う。	(1)平和学習に取り組む関心・意欲・態度をもつ。 (2)自分の住む地域の戦跡を訪ねたり、戦争体験者などから話を聞いたりして戦争を身近なものとしてとらえる。 (3)体験談や社会科の学習・文学教材などから原爆・戦争（紛争）の実相や悲惨さを学ぶ。 (4)原爆の悲惨さとその非人道性、破壊力、今に続く被爆者の苦しみを知る。

		<p>(5)戦争によって誰が犠牲になるのか知る。</p> <p>(6)命の尊さと平和の大切さを願う心情を育てる。(音楽、劇、造形活動などをおして)</p> <p>(7)戦争や不正義を許さない態度を養うとともに自分たちにできることを考える。</p>
小学校高学年	<p>原爆・戦争(紛争)の実相や悲惨さを学び、その原因や背景を理解するとともに、平和な日本と世界を築くための実践的態度を育てる。</p>	<p>(1)主体的に平和学習に取り組む関心・意欲・態度をもつ。</p> <p>(2)体験談やフィールドワークなどを通して戦争の悲惨さを学ぶ。</p> <p>(3)社会科歴史学習を通して原爆・戦争(紛争)の悲惨さを知り、その原因を理解する。</p> <p>(4)原爆の非人道性を知り、投下目的を考えるとともに、今に続く核時代の脅威に気付く。</p> <p>(5)命の尊さと平和の大切さを願う心情を育てる。(音楽、劇、造形活動などをおして)</p> <p>(6)社会科公民の学習を通して、日本国憲法の理念と核廃絶・平和を創るとりくみの大切さを知り、平和への展望を明らかにする。</p> <p>(7)人権教育・環境教育・開発教育・国際理解教育の視点から平和を考える。</p> <p>(8)平和な日本と世界を築くために、自分たちにどんなことができるか考える。</p>
中学校1・2学年	<p>原爆・戦争のもつ非人間性、残虐性を、おもに被害面の諸教材で知り、戦争への怒りと憎しみを育てるとともに、平和の尊さと人間=生命の尊厳を理解する。</p> <p>戦争の原因を追求し、戦争をひきお</p>	<p>(1)戦争と不正義を憎み、平和と人間性を大切にする平和学習の意義を学級内で確立する。</p> <p>(2)戦争・原爆・平和についての意識や関心を把握する。</p> <p>(3)家族などの戦争や原爆体験の聞き取りで、戦争・原爆などを身近に感じさせる。</p> <p>(4)十五年戦争の極限状況でもあった原爆投下の実態を、体験記や文学作品でつかませる。</p> <p>(5)原爆の残虐性と非人道性を事実の記録によって具体的につかませるとともに、その威力を理解する。</p>

	<p>こす力とその本質を、おもに加害面の諸教材で知り、戦争が人間に強い極限状況をつかませるとともに、平和を守ることの大切さを科学的に認識する。</p>	<p>(6) 人間 = 生命の尊厳を否定する原爆がなぜ投下されたのかを明らかにする。</p> <p>(7) 日本国内における戦争の残虐性・非合理性が浮き彫りにされたものとして、沖縄戦の実相を知る。</p> <p>(8) 日中十五年戦争における日本の加害面を明らかにし、帝国主義戦争の本質をつかむ。</p> <p>(9) 侵略戦争の背景となったアジアの人々への蔑視感(差別意識)について明かし、差別意識の払拭が大切であることを理解する。</p> <p>(10) 原爆や空襲・戦災など犠牲を受けたのは、民衆であったことをつかみとる。</p> <p>(11) 植民地や占領地域での抗日運動や民族独立のたたかいを具体的に知り、正義と不正義などをつかみとる。</p> <p>(12) 戦争がおこる原因を歴史的に考えるとともに、第二次世界大戦の性格を明らかにする。</p> <p>(13) 朝鮮戦争やベトナム戦争について、東西対立や日本とのかかわりを知り、戦争を止めさせた力は何かを考える。</p> <p>(14) 第五福竜丸の被曝を通して、核開発競争の状況を知り、どのようにして原水爆禁止運動に発展したかを理解する。</p> <p>(15) 今日、戦争と核使用の危険はないのか、日本の現状はどうなのかなどを考えるとともに、これまでの学習の総まとめをして、次への発展を示唆する。</p>
<p>中学校 3 学年</p>	<p>戦争・原爆を過去のものとして、現代の戦争の本質を見ぬくとともに、戦争と核兵器の使用を阻止して平和を守り築く力を日本と世界の平和・原水爆禁止運動の中に求める。それらと関連させて国連やNGOなどの働きを理解し、自分たちも平和を担う人類のひとりであることを自覚する。</p>	<p>(1) 人間 = 生命の尊厳を確立する平和学習への意欲を一層強める。</p> <p>(2) 世界に誇る日本国憲法の平和主義の意義をしっかりとつかみ、これを生かしていくにはどうしたらよいか考える。</p> <p>(3) 自衛隊、日米安全保障条約、非核三原則を、戦後の日本とアメリカとのつながりと関連させて考える。</p> <p>(4) 被爆者などにとって戦争はまだ終わっていないことの意味をしっかりとつかむ。</p>

		<p>(5) 現在もヒバクシャがつくられていることを知り、核実験や原子力利用の問題点をつかむ。</p> <p>(6) 現代の戦争(紛争)の背景となっている人権抑圧・飢餓・貧困などの構造的暴力についての現状をつかむ。</p> <p>(7) 現代の戦争(紛争)と核状況を知り、核使用の危険が迫っていることを明確につかみとる。</p> <p>(8) 核兵器の使用を阻止し得ている力と、平和運動や原水爆禁止への展望を明らかにする。</p> <p>(9) 国連やNGOの働き、戦争違法化の歩みなどの学習を通して、平和を築くために私たちに何ができるのかを考え、実践する。</p>
--	--	---